

# 「中国」～この国の真実を知る時が来た～

日中友好の秘訣は簡単である。日本が強い国になればよい。強い国とは、力のある国という意味である。政治力、経済力、文化力、宣伝力、ブランド力、国際社会における好感度、道徳や品格、未来の可能性の魅力。何でもいい。日本に力があり、日本人が良い意味での自信と余裕を持ち続けるならば、日中両国の平和は保たれるであろう。

問題は、近年の日本が、いろいろな意味で力を失っていることである。

中国人は、自分の欲望に正直だ。彼らは日本の技術力やブランド力には、一目置いている。だから新幹線をパクる。日本の土地を買いあさる。ファッションをまねる。

一方、中国人は、日本式の民主主義には魅力を感じない。日本の国民は、自分たちが選挙で選んだ政治家を無能だと罵倒し、マスコミもそれをあおる。首相は威厳もカリスマ性もなく、短期で交代する。政治は低迷し、国は弱くなる。中国人は、日本式の民主制に魅力を感じない。日本の選挙政治をパクリたいとは思わない。

中国人の腹のうちを探ることは、それを鏡として、日本を振り返る作業でもある。

加藤 徹 著「中国人の腹の内」(廣済堂新書)より

## What is the Chinese?

### ■講師紹介



**丹羽 宇一郎 氏** (前中華人民共和国駐筋特命全権大使、前伊藤忠商事株式会社社長)

1962年3月名古屋大学法学部卒業、同年4月伊藤忠商事入社、主に食料部門に携わる。

1998年同社社長、2004年会長に就任

2010年6月～2012年12月中華人民共和国駐筋特命全権大使、現在に至る

2005年7月～2010年6月認定NPO法人 国連WFP協会会長

2006年10月～2008年10月経済財政諮問会議民間議員

2007年4月～2010年3月地方分権改革推進委員会委員長

主な著書に『人は仕事で磨かれる』文春文庫刊

『汗出せ、知恵出せ、もっと働け!』文藝春秋刊

『新・ニッポン開国論』日経BP刊

『負けてたまるか!若者のための仕事論』朝日新聞出版刊

『北京烈日』文藝春秋刊

### ■ナビゲーター



金印大使

神田 紅 さん



**加藤 徹 氏** (明治大学法学部教授)

1963年、東京生まれ。

東京大学中文科、同・大学院で中国文学を学ぶ。専門は中国伝統演劇。北京大学留学。

広島大学助教授などを経て、現在、明治大学法学部教授。

主な著書に『倭の風』中公文庫

『貝と羊の中国人』新潮新書

『新版 絵で読む漢文』朝日出版社

『漢文力』中公文庫

『京劇-「政治の国」の俳優群像』(2002年サントリー学芸賞受賞)

『西太后-大清帝国最後の光芒』中公新書

『漢文の素養-誰が日本文化をつくったのか?』光文社新書

『怪の漢文力』中公文庫

『本当は危ない『論語』』NHK出版新書

『中国人の腹のうち』廣済堂新書 等

あの  
「貝と羊の中国人」著者!



■チケット販売 チケットぴあスポット、セブンイレブン、サークルK・サンクスで発売中 Pコード: 624-009

チケット郵送希望は主催事務局へお申し込み下さい。